

令和4年度第5回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 配付資料

- 令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿 P 1
- 【資料1】 令和4年度第4回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要 P 2
- 【資料2】 伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について P 4
- 【資料3】 これまでの協議における意見や考え方の整理 P 9
- 【資料4】 令和19年度をみすえた伊勢志摩地域の県立高等学校の
学びと配置のあり方について（当協議会の意見） P 11
- 【資料5】 伊勢志摩地域の県立高等学校の学びと配置のあり方（案） P 12
- 【参考資料1】 伊勢志摩地域 中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減） P 13
- 【参考資料2】 伊勢志摩地域の中学校卒業者数（予測）と県立高等学校募集定員 P 14
- 【参考資料3】 伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて P 15
- 【参考資料4】 伊勢志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移 P 16
- 【参考資料5】 市町別の中学校卒業者進学先の推移 P 17

- 【別冊資料1】 伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果（対象：生徒）
- 【別冊資料2】 伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果（対象：保護者）
- 【別冊資料3】 伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果
中学生・保護者の自由記述等
- 【別冊資料4】 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

令和4年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

No	所属及び名前	本年度 出席委員
1	学識経験者 三重大学 大学院生物資源学研究科 教授 坂本 竜彦	○
2	地域有識者 亀谷内科胃腸科 院長 亀谷 章	○
3	鳥羽商工会議所 専務理事 清水 清嗣	○
4	志摩市商工会 事務局長 竹内 厚史	○
5	度会町商工会 事務局長 富内 伊佐雄	○
6	市町教育委員会 教育長 岡 俊晴	○
7	鳥羽市教育委員会 教育長 小竹 篤	○
8	志摩市教育委員会 教育長 舟戸 宏一	○
9	度会町教育委員会 教育長 中村 武弘	○
10	南伊勢町教育委員会 教育長 劔山 成実	○
11	県立高等学校長代表 県立南伊勢高等学校 校長 角屋 貴久	○
12	小中学校長代表 伊勢市立港中学校 校長 清水 能人	○
13	鳥羽市立加茂中学校 校長 西井 潔	—
14	志摩市立東海中学校 校長 寺本 一夫	○
15	大紀町立大宮中学校 校長 辻井 良孝	—
16	小中学校PTA代表 伊勢市PTA連合会 代表 浦田 宗昭 (伊勢市立厚生中PTA)	○
17	鳥羽市PTA連合会 代表 水川 敬善 (鳥羽市立加茂中PTA)	○
18	志摩市PTA連合会 代表 大西 正和 (志摩市立東海中PTA)	○
19	度会郡PTA連絡協議会 代表 東谷 雅人 (玉城町立外城田小PTA)	○
20	高等学校PTA代表 南勢地区高等学校PTA連合会 代表 藤原 達郎 (県立水産高校PTA)	○
21	小中学校教職員代表 伊勢市立明倫小学校 教諭 坂口 直矢 (伊勢市 教員代表)	○
22	志摩市立東海小学校 教諭 里中 洋典 (鳥羽・志摩地域 教員代表)	○
23	南伊勢町立南勢中学校 教諭 加藤 隆彦 (度会・南伊勢地域 教員代表)	—
24	高等学校教職員代表 県立伊勢工業高等学校 教諭 三橋 哲夫 (県立高等学校 教員代表)	○

令和 4 年度第 4 回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 4 年 1 0 月 1 2 日（水）19 時 00 分から 21 時 00 分まで
- 2 場所 伊勢庁舎 4 0 1 会議室
- 3 概要

地域の中학생や保護者を対象としたアンケートに関する質問内容等について、前回の意見等をふまえて協議するとともに、令和 6 年度に想定される当地域の県立高校の学級減への対応の方向性をはじめ、今後の地域の高校のあり方について、協議しました。

＜主な意見＞

（中学生・保護者を対象としたアンケート内容について）

- 中学生が高校に期待する教育内容は、これからの地域における高校のあり方を考えるにあたり大切なものであるため、自由記述欄を設けるなどして、子どもたちのニーズを深く把握する必要があるのではないかと。
- 高校を選ぶときに重視することを聞く質問は、学習内容と学校生活全般に分けたほうが、子どもたちが考えやすくなるのではないかと。また、子どもたちの思いを幅広く把握するためにも回答数を増やしてはどうか。
- 回答数を増やすのはいいが、制限を設けたほうが子どもたちの考える優先度がはっきり分かるのではないかと。
- 高校進学を想定していない生徒や、まだ高校進学の意欲が低い生徒にも配慮した表現にしたほうがよいのではないかと。
- アンケートは、これからの高校の学びや配置のあり方に、子どもたちの意見を反映させていく良い機会になる。また、新しい高校のあり方を考えていくためにも、今後もこのようなアンケートを継続して実施できればよい。

⇒ これらの意見をふまえて、事務局が原案を修正した後、会長・副会長をはじめ各委員が確認してアンケート内容を確定する。

(15年先を見ずえた当地域の県立高校の学びと配置の方向性について)

- 生徒が行きたい高校を選択して進学できる環境が理想である。現在の高校進学率は9割を超えるため、経済的な面も踏まえた進路選択の保障が大切となる。
- 地域の高校の統廃合を考えるにあたっては、地域の方々の意見が大事な材料となる。
- 県内他地域の高校の学科編成等も参考にしながら、この地域における多様な学びの保障を大事にしていきたい。
- 予測がつきにくい15年先の配置のあり方を考える場合には、地域の小規模校の再編よりも、伊勢市内の高校配置を検討する必要があるのではないか。
- 15年先に地域の総学級数が1学年18学級規模となったときに、伊勢市以外の高校を存続させると、伊勢市内の高校の学級数が減ることとなり、私立高校により多くの生徒が入学していくのではないかと危惧される。
- キャリア教育を考える際に、子どもたちが地域において何を目指し、何をするのかを考えるような学びが必要である。
- 進学や就職を契機に三重県を離れ、その後も戻ってこないことが伊勢志摩地域の人口減少につながっている。その解決のためにも、子どもたちが減少していく中で高校を再編する場合には、地域における学びの保障とともに、地域を学ぶ教育内容の継承について議論していく必要がある。

(令和6年度に想定される当地域の県立高校の学級減への対応の方向性について)

- 令和6年度に想定される地域での4学級規模の生徒の減少については、15年先に総学級数が1学年18学級規模に減少していく途上であるという視点をもって、高校の学びと配置を検討していく必要がある。
- 通学費の負担等が原因で志望する高校に行きにくいという現状もあるため、地域の小規模校を存続してもらいたいという意見を聞く。また、長時間の通学に係る生徒への負担も考えていきたい。
- 地域の小規模校を残しながら生徒数が減り続けた末に統廃合するのか、一定の学級規模がある段階で統廃合を行うのかについて議論するべきである。

伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 中学生を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶとき、学習面で重視すること)

- ・「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(45.1%)、「就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる」(29.3%)、「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる」(25.6%)の順となっている。

(高校を選ぶとき、学校生活全般で重視すること)

- ・「文化祭や体育祭などの学校行事」(66.5%)、「確かな学力を身につける授業」(65.5%)に続いて、「多くの友だちや先生と出会える」(55.9%)、「通学のしやすさ」(54.2%)を重視している。

(高校に期待する教育)

- ・「自分の将来を選択する力が身につく教育」(75.3%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力が身につく教育」(64.3%)、「基本的な知識が身につく教育」(58.6%)、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」(58.3%)を期待している。

B 学級の規模について

- ・選んだ生徒が多い順に「3～4学級」(49.0%)、「1～2学級」(25.8%)、「5～6学級」(21.1%)、「7学級以上」(4.0%)となっている。
- ・生徒の多くが学びたい学級規模に関係なく、選んだ理由を「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」(50.5%)としている。

C 通学時間について

- ・選んだ生徒が多い順に「31～60分」(52.7%)、「30分以内」(26.3%)、「61～90分」(16.6%)、「91～120分」(2.8%)、「121分以上」(1.6%)となっている。

D 高校での地域の学習について

- ・選んだ生徒が多い順に「別の分野について」(37.2%)、「高校が所在する市町」(31.9%)、「伊勢志摩地域全体」(30.3%)となっている。

E 将来生活する場所について

- ・「まだ、決まっていない。わからない」(34.8%)が最も多く、続いて、「県外」(23.5%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」(16.4%)、「地元」(13.5%)となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶとき、学習面で重視すること)

- ・「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(63.0%)に続いて、「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる」(21.4%)、「就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる」(14.4%)となっている。

(高校を選ぶとき、学校生活全般で重視すること)

- ・「確かな学力を身につける授業」(67.8%)をはじめ、「通学のしやすさ」(61.9%)、「多くの友だちや先生と出会える」(57.2%)、「一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育」(51.1%)を重視している。

(高校に期待する教育)

- ・「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」(73.5%)をはじめ、「進路選択の力を育む教育」(63.6%)、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につけることができる教育」(63.3%)、「主体的に学び続ける力を育む教育」(59.0%)を期待している。

B 15年先の伊勢志摩地域の県立高校のあり方について

- ・今後の伊勢志摩地域の高校について、「一定の統合は避けられない」(52.2%)が最も多く、続いて、「統合は避けるべき」(29.3%)、「必要な統合を進めるべき」(12.2%)となっている。

C 通学時間について

- ・選んだ保護者が多い順に、「31～60分」(62.9%)、「30分以内」(19.1%)、「61～90分」(13.6%)、「91～120分」(1.9%)、「121分以上」(0.4%)となっている。

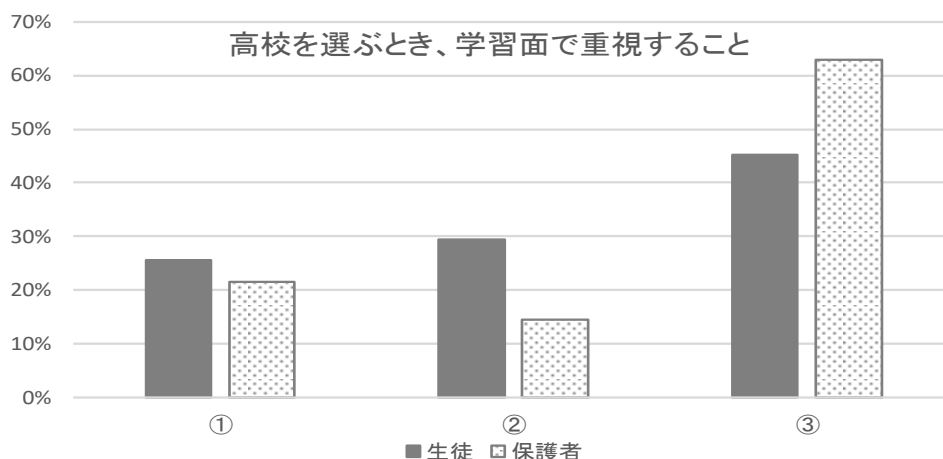
D 将来生活する場所について

- ・「本人の希望次第」(68.7%)が最も多く、続いて、「地元」(11.2%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(8.1%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較 (中学生 1,538 人、保護者 1,391 人)

(1) 高校を選ぶとき学習面で重視すること (回答は1つ、() は各回答者数に対する割合)

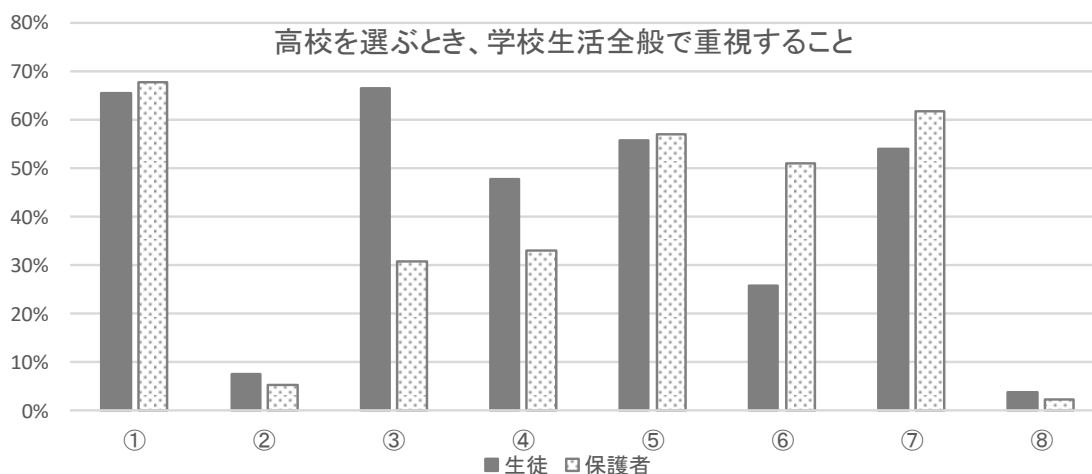
項目	生徒	保護者
①大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる	393 (25.6%)	298 (21.4%)
②就職につながる専門的な知識や技能、資格が取得できる	451 (29.3%)	200 (14.4%)
③進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる	694 (45.1%)	876 (63.0%)



(2) 高校を選ぶとき学校生活全般で重視すること

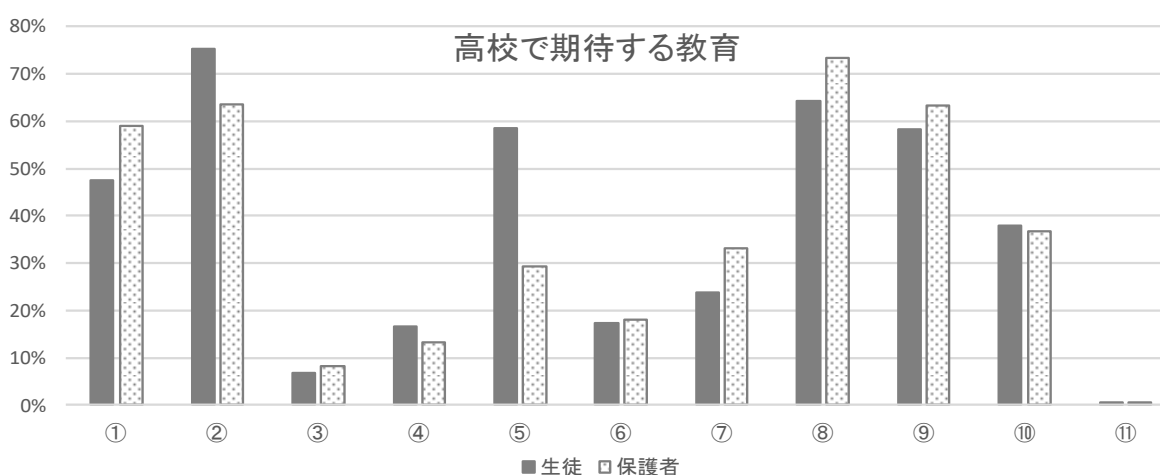
(回答は4つ以内、() は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①確かな学力を身につける授業が充実している	1007 (65.5%)	943 (67.8%)
②地域に密着した活動がある	117 (7.6%)	75 (5.4%)
③文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	1023 (66.5%)	429 (30.8%)
④入りたい部活動がある	735 (47.8%)	460 (33.1%)
⑤多くの友だちや先生と出会うことが期待できる	859 (55.9%)	795 (57.2%)
⑥一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる	398 (25.9%)	711 (51.1%)
⑦通学しやすい	833 (54.2%)	861 (61.9%)
⑧その他	59 (3.8%)	32 (2.3%)



(3) 入学する高校に期待する教育 (回答は5つ以内、()は各回答者数に対する割合)

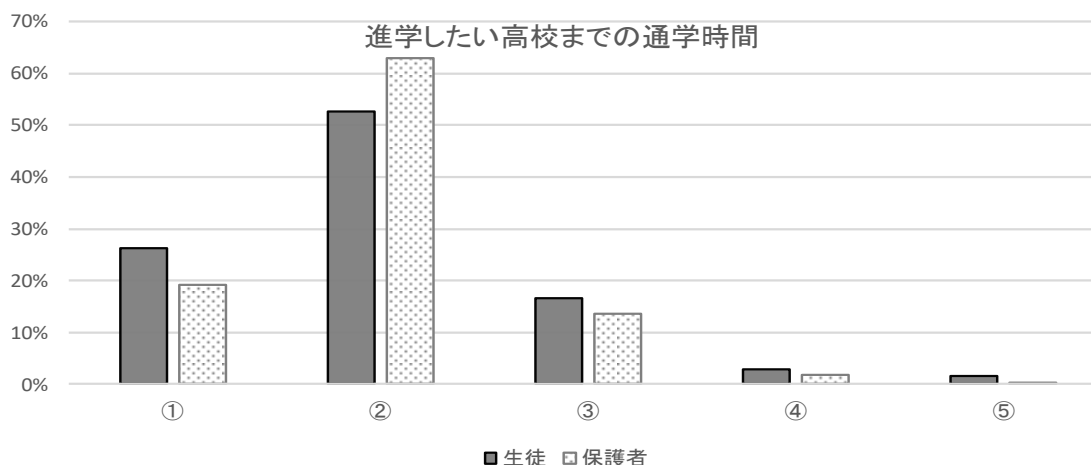
項目	生徒	保護者
①自ら学び続ける力が身につく教育	731 (47.5%)	820 (59.0%)
②自分の将来を選択する力が身につく教育	1158 (75.3%)	885 (63.6%)
③地域について学ぶ教育	103 (6.7%)	116 (8.3%)
④人権に対する意識が高まる教育	257 (16.7%)	185 (13.3%)
⑤基本的な知識が身につく教育	901 (58.6%)	408 (29.3%)
⑥ICTを積極的に活用する教育	267 (17.4%)	252 (18.1%)
⑦広く世界で活躍できる力が身につく教育	366 (23.8%)	462 (33.2%)
⑧社会性や協調性、コミュニケーション能力が身につく教育	989 (64.3%)	1022 (73.5%)
⑨社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	897 (58.3%)	880 (63.3%)
⑩特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	584 (38.0%)	511 (36.7%)
⑪その他	10 (0.7%)	9 (0.6%)



(4) 進学したい高校までの通学時間はどれくらいまでなら可能か。

(回答は1つ、()は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①30分以内	405 (26.3%)	266 (19.1%)
②31～60分	811 (52.7%)	875 (62.9%)
③61～90分	255 (16.6%)	189 (13.6%)
④91～120分	43 (2.8%)	27 (1.9%)
⑤121分以上	24 (1.6%)	6 (0.4%)



4 アンケート結果より

(1) 学び等、高校で重視したいこと

(ア) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が60%以上の項目（3選択肢から1つ選択）

① 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できる教育

中学生 694 人 (45.1%) 保護者 876 (63.0%)

(イ) 中学生、保護者の少なくとも一方の割合が50%以上の項目

(8選択肢から4つまで選択、11選択肢から5つまで選択)

① 自分の将来を選択する力が身につく教育

中学生 1158 人 (75.3%) 保護者 885 人 (63.6%)

② 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育

中学生 989 人 (64.3%) 保護者 1022 人 (73.5%)

③ 確かな学力を身につける授業が充実している

中学生 1007 人 (65.5%) 保護者 943 人 (67.8%)

④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

中学生 1023 人 (66.5%) 保護者 429 人 (30.8%)

⑤ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

中学生 897 人 (58.3%) 保護者 880 人 (63.3%)

⑥ 通学しやすい

中学生 833 人 (54.2%) 保護者 861 人 (61.9%)

※通学時間は、中学生と保護者とも「31～60分」が最も多く選ばれている

⑦ 自ら学び続ける力が身につく教育

中学生 731 人 (47.5%) 保護者 820 人 (59.0%)

⑧ 基本的な知識が身につく教育

中学生 901 人 (58.6%) 保護者 408 人 (29.3%)

⑨ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる

中学生 859 人 (55.9%) 保護者 795 人 (57.2%)

⑩ 一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が期待できる

中学生 398 人 (25.9%) 保護者 711 人 (51.1%)

※地域学習について

・高校を選ぶときに重視すること：地域に密着した活動がある

中学生 117 人 (7.6%) 保護者 75 人 (5.4%)

・期待する教育：地域について学ぶ教育

中学生 103 人 (6.7%) 保護者 116 人 (8.3%)

・高校での地域の学習について

中学生：進学した高校が所在する市町について学んでみたい 490 人 (31.9%)

：伊勢志摩地域全体のことについて学んでみたい 466 人 (30.3%)

(2) 配置について

(ア) 中学生が望む高校の学級規模とその理由

・規模 ① 3～4学級 754 人 (49.0%) ② 1～2学級 397 人 (25.8%)

③ 5～6学級 325 人 (21.1%) ④ 7学級以上 62 人 (4.0%)

・理由 ① 多くの出会い 776 人 (50.5%) ② 関係の深まり 381 人 (24.8%)

③ 多様な選択 216 人 (14.0%) ④ 一人ひとりへのサポート 124 人 (8.1%)

⑤ その他 41 人 (2.7%)

(イ) 保護者が考える15年先の伊勢志摩地域における高校のあり方の方向性

① 一定の統合は避けられない 726 人 (52.2%)

② 統合は避けるべき 408 人 (29.3%)

③ 必要な統合を進めるべき 170 人 (12.2%)

※無回答 87 人 (6.3%)

これまでの協議における意見や考え方の整理

15年先を見すえた当地域の高等学校の学びと配置のあり方などについて、令和2～3年度の議論と今年度4回の協議会での主な意見を整理し、今年度末の「協議のまとめ」につなげていきます。

1. これからの伊勢志摩地域の高校生に必要な力や学びについて

- ・変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むことが大切
- ・働く意義の自覚や人間性の育成のためにも、キャリア教育を推進することが大切
- ・知識や技能の修得だけでなく、自ら課題を発見し、その課題を解決していく能力を育成することが大切
- ・地域への愛着心を養うことが大切
- ・将来、地域の担い手となる人材や、地域に戻って活躍するような人材の育成が大切

2. 今後の生徒減における地域の高校の学びと配置のあり方を協議するにあたり、大切にすべきことや配慮すべきことについて

「これまで培ってきた地域と連携した学びの継続」

- ・地域の担い手育成の視点からも、小中学校で行われている「ふるさと教育」等が大切
- ・高校においても、小規模校で進めてきた地域を学びの場とする地域課題に取り組むことが大切
- ・これからは伊勢志摩地域を一つの地域としてとらえる「伊勢志摩学」として特色ある地域の教育と位置付け、地域すべての高校において進めることが大切
- ・ICTも活用しながら、通信制課程で地域の学びを保障していくなどの視点も大切

「ICTを活用した学習」

- ・高等教育機関や専門家等とつなぐことは専門的な知識の伝達や交流活動に効果的
- ・一方、協働的な学びや、学校行事・部活動などにおいて、対面ほどの効果を得ることは困難
- ・今後もこの地域で有効に活用できるよう、柔軟に研究や実践を続けていくことが大切

「生徒の通学状況への配慮」

- ・以前に比べれば交通網は整備されたものの、伊勢志摩地域は広いため、通学に関する問題については継続して考えていくことが必要
- ・高校の統合を進める場合、遠くから通学することとなる生徒に対し、スクールバスの検討など、運用面・資金面も含めた具体的な支援を検討することが必要

3. 今後の生徒減に対応した地域の普通科や専門学科等の学びの考え方について

- ・高校に進学する中学生の進路選択にかかるニーズに応えるため、学びの選択肢を地域の中で、できる限り確保することが大切
- ・普通科・専門学科・総合学科のバランスの取れた配置が大切
- ・生徒や保護者の大学進学へのニーズに対応するため、地域の中に一定の規模の県立高校の普通科を維持することが必要
- ・地域の担い手を育む学びの選択肢を確保するため、多様な専門学科の学びはできる限り維持することが大切

4. 今後の生徒減に対応した県立高等学校の規模と配置の考え方について

- ・今後の伊勢志摩地域の中学校卒業生数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは困難
- ・地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割や、丁寧な指導などの教育内容を大切にしながらも、学校個別ではなく、地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要
- ・単に志願者や入学者等の数によって、高校の統廃合を検討するのではなく、伊勢志摩地域で通える範囲に高校が配置され、地域で多様な人材を育てることが大切
- ・専門学科同士の統合も含め、今後もその配置のあり方について継続的な検討が必要
- ・高校時代に多くの人との出会いの中で学び合うことは、生徒の社会性や人間性の育成にとって大切
- ・様々な生徒の学びのニーズに応えられるよう、一定の規模を維持しながら、高校をより魅力化することが大切
- ・学校内での学びの選択肢を増やすためには、一定の学級規模が必要
- ・長時間の通学は負担となるため、できるかぎり地域に普通科を維持することも大切
- ・15年先の高校のあり方については、伊勢市内の高校配置の検討も必要

5. 令和6年度に想定される当地域の県立高校の4学級減への対応の方向性

- ・15年先に総学級数が18学級規模に減少していく途上であるという視点をもって、高校の学びと配置を検討していくことが必要
- ・地域の小規模校を残しながら生徒数が減り続けた末に統廃合するのか、一定の学級規模がある段階で統廃合を行うのかについて検討していくことが必要

令和19年度をみすえた伊勢志摩地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について（当協議会の意見）

令和5年度
33 学級
地域の中学校卒業予定者数
1,928人(現中3)

令和6年度
29 学級
地域の中学校卒業予定者数
1,723人(現中2)
前年度比▲205

令和8年度
28 学級
地域の中学校卒業予定者数
1,716人(現小6)
前年度比▲39

令和10年度
24～25 学級程度
地域の中学校卒業予定者数
1,572人(現小4)
前年度比▲159

令和19年度
18～21 学級程度
地域の令和3年度出生者数1,199人

宇治山田高校 (普5)
伊勢高校 (普7)
伊勢工業高校 (専4)
宇治山田商業高校(専5)
明野高校 (専4)
南伊勢高校 (普2)
南勢校舎・度会校舎
鳥羽高校 (総2)
志摩高校 (普2)
水産高校 (専2)

伊勢志摩地域の
県立高校 (全日制)
水産高校 (専2)

伊勢志摩地域の
県立高校 (全日制)
水産高校 (専2)

伊勢志摩地域の
県立高校 (全日制)

15年先を見すえた当該地域の高等学校の学びと配置のあり方
(これからの当該地域の高校生に必要な力や学び)

- ・ 大学進学や就職などの進路実現につながる多様な学び
- ・ 学校内外での様々な人との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び
- ・ 地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び
- ・ 一人ひとりへのきめ細かな関わり
- ・ 自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力
- ・ 将来、地域の担い手となる人材や地域に戻って活躍する人材の育成につながる学び

(こうした学びを実現するための配置の考え方)

- ・ 現在の高校配置の継続は困難となり統合は避けられない
- ・ 専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持

学科の割合
(令和5年度)

普通科	48.5%
専門学科	45.5%
総合学科	6.1%

令和5年度をめどに
方向性

令和7年度をめどに
方向性

今後の協議にあたり検討や配慮すべき事項

- ・ 地域の小規模校がこれまで果たしてきた役割を大切にしながら、学校個別ではなく地域全体で高校の学びを考えて統合を協議していくことが必要
- ・ 交通が不便な地域における学びの機会の提供方策
- ・ 中学生への事前の周知
- ・ 定時制、通信制課程の学びの活用
- ・ 規模が小さい学校や近くの学校を求める生徒の思いへの配慮

※伊勢志摩地域における県立高校と私立高校の募集定員の比率、中学校卒業率が市町を越えて高校進学する比率が、現在と大きく変わらない場合の予測に基づく。
※中学校卒用予定者数は、令和4年5月1日時点の教育政策課による予測数値

伊勢志摩地域の県立高等学校の学びと配置のあり方（案）

- ・ これからの時代を生きる伊勢志摩地域の高校生にとって、大学進学や就職などの進路希望の実現につながる多様な学び、学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び、地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び、一人ひとりへのきめ細かな関わりが必要です。現在、当地域における高校の1学年の総学級数は32学級ですが、令和3年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和19年度には18学級から21学級に減少することが見込まれます。そのため、現在の9校10校舎の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要となります。
- ・ 今後、令和19年度までの15年間における伊勢志摩地域の高校の配置と活性化方策については、この期間の生徒の減少状況をふまえ、当地域全体を見通した具体的な検討を進めるとともに、必要に応じて、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、中学生への事前の周知についても検討することとします。その過程にある令和6年度の生徒減については、専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本としつつ、地域の小規模校が担ってきた役割やニーズをふまえ、できるかぎり統合ではなく学級減で対応することが望ましいと考えます。

伊勢志摩地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

令和4年5月1日 教育政策課調べ

参考資料1（R4.第2回資料に追記）

	H 15.3 卒業		H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 現中3	R 6.3 現中2	R 7.3 現中1	R 8.3 現小6	R 9.3 現小5	R 10.3 現小4	R 11.3 現小3	R 12.3 現小2	R 13.3 現小1
	卒業生数	1,510	1,170	1,087	1,057	1,082	1,127	972	1,030	999	1,030	975	900	955	912
前年度対比			-83	-30	25	45	-155	58	-31	31	-55	-75	55	-43	
R4.3対比						45	-110	-52	-83	-52	-107	-182	-127	-170	
卒業生数	552	369	358	308	315	337	311	319	292	305	263	272	279	288	
前年度対比			-11	-50	7	22	-26	8	-27	13	-42	9	7	9	
R4.3対比						22	-4	4	-23	-10	-52	-43	-36	-27	
卒業生数	294	140	132	149	143	122	105	119	110	98	95	107	83	100	
前年度対比			-8	17	-6	-21	-17	14	-9	-12	-3	12	-24	17	
R4.3対比						-21	-38	-24	-33	-45	-48	-36	-60	-43	
卒業生数	653	400	389	313	339	342	335	287	315	298	239	282	273	249	
前年度対比			-11	-76	26	3	-7	-48	28	-17	-59	43	-9	-24	
R4.3対比						3	-4	-52	-24	-41	-100	-57	-66	-90	
卒業生数	3,009	2,079	1,966	1,827	1,879	1,928	1,723	1,755	1,716	1,731	1,572	1,561	1,590	1,549	
前年度対比			-113	-139	52	49	-205	32	-39	15	-159	-11	29	-41	
R4.3対比						49	-156	-124	-163	-148	-307	-318	-289	-330	
卒業生数	20,468	16,811	16,489	15,777	16,244	16,044	15,880	15,607	15,433	15,225	14,717	14,358	14,053	14,006	
前年度対比			-322	-712	467	-200	-164	-273	-174	-208	-508	-359	-305	-47	
R4.3対比						-200	-364	-637	-811	-1,019	-1,527	-1,886	-2,191	-2,238	

伊勢市内高校 (県立全日)	学級数(募集)	26	26	24	24	25
	欠員	2	15	3	0	-
伊勢以外高校 (県立全日)	学級数(募集)	10	8	8	8	8
	欠員	84	77	117	129	-
伊勢地区高校 (県立全日)	学級数(募集)	36	34	32	32	33
	欠員	86	92	120	129	-
県内(県立全日)	学級数(募集)	293	285	271	274	268
	欠員	192	339	325	324	-

(私立、高専入学者の状況)

皇學館	募集	320	320	315	315	315
	入学者数	336	378	323	353	-
伊勢学園	募集	220	220	220	230	230
	入学者数	243	245	283	274	-
鳥羽商船	募集	120	120	120	120	120
	入学者数	122	126	128	120	-
3校の欠員数(合計)		-41	-89	-79	-82	-

(参考)

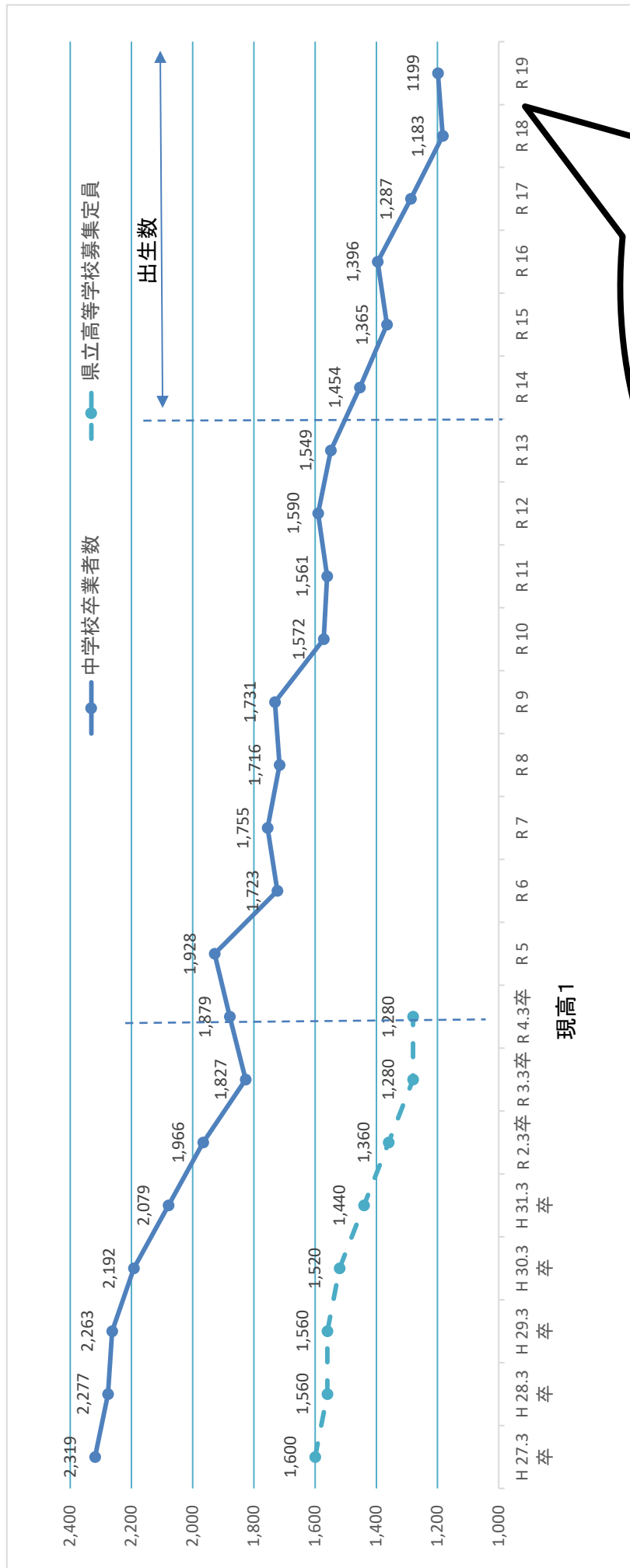
三重	募集	530	530	530	540	535
	入学者数	591	624	548	584	-

※欠員の(-)は、定員を超過した入学者数を示す。

伊勢志摩地域の中学校卒業生数(予測)と県立高等学校募集定員

参考資料2 (R4第2回資料)

※R14年度以降は地域の出生数を記載



伊勢志摩地域の出生数

	H27年度出生 現小1	H28年度出生 5~6才	H29年度出生 4~5才	H30年度出生 3~4才	R1年度出生 2~3才	R2年度出生 1~2才	R3年度出生 0~1才
伊勢市	935	864	814	883	811	761	744
鳥羽市	108	109	94	98	83	65	88
志摩市	258	240	227	209	205	177	167
度会郡	273	241	230	206	188	180	200
合計	1,574	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199

令和19年度(15年後)
伊勢志摩地域県立高等学校
募集定員総数の見込み
18~21学級規模

伊勢志摩地域の高校(全日制)の入学定員と入学者数・欠員数の推移

教育政策課

学校名	平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			
	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	
明野	200	189	11	160	159	1	160	150	10	160	160	0	160	160	0	
宇治山田	240	241	(1)	240	240	0	240	240	0	200	200	0	200	200	0	
伊勢	320	320	0	280	280	0	280	280	0	280	281	(1)	280	280	0	
宇治山田商業	200	200	0	200	200	0	200	199	1	160	157	3	160	160	0	
伊勢工業	160	159	1	160	159	1	160	156	4	160	160	0	160	160	0	
南伊勢	度会校舎	80	43	37	80	70	10	80	36	30	80	38	80	35	80	34
	南勢校舎	40	21	19	40	5	35		14		7	2		44		
鳥羽	80	66	14	80	64	16	80	59	21	80	46	34	80	45	35	
志摩	120	111	9	120	107	13	80	77	3	80	51	29	80	53	27	
水産	80	80	0	80	70	10	80	57	23	80	61	19	80	57	23	
県立高校合計	1,520	1,430	91	1,440	1,354	86	1,360	1,268	92	1,280	1,161	120	1,280	1,151	129	
皇學館	340	400	-60	320	336	-16	320	378	-58	315	323	-8	315	353	-38	
伊勢学園	230	221	9	220	243	-23	220	245	-25	220	283	-63	230	274	-44	
私立高校合計	570	621	-51	540	579	-39	540	623	-83	535	606	-71	545	627	-82	

※県立高校の欠員欄に()で示した数字は、追検査で合格があったために入学者数が入学定員を上回っている人数を表しています。

※私立高校の欠員欄のマイナス(-)は、入学定員を超過した入学者数を示します。

市町別の中学校卒業生進学先の推移

参考資料5 (R4第1回資料)

伊勢市の状況

%は、各市町における中学校卒業生に対する進学者の割合を表す

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢					度会	南勢					
3年度	1082	1015	78	177	89	70	70	181	133	29.0%	798	73.8%	14	33	2	2	15	0	66	6.1%	151	67
2年度	1057	1008	88	170	91	82	82	167	127	27.8%	807	76.3%	15	27	2	1	22	0	67	6.3%	134	49
元年度	1087	1014	104	179	94	80	66	181	119	27.6%	823	75.7%	18	34	2	4	17	0	75	6.9%	116	73
30年度	1170	1108	112	172	89	82	81	163	124	24.5%	823	70.3%	27	33	5	5	28	0	98	8.4%	187	62
29年度	1196	1117	116	194	95	88	92	185	109	24.6%	879	73.5%	21	23	2	4	23	0	73	6.1%	165	79

鳥羽市の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽		商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢	度会	南勢								
3年度	143	132	9	17	7	12	9	17	15	22.4%	86	60.1%	14	9.8%	9	5	3	0	0	15	11
2年度	149	142	18	16	13	10	20	18	15	22.1%	110	73.8%	14	9.4%	6	0	2	0	0	10	7
元年度	132	129	19	11	5	11	11	14	4	13.6%	75	56.8%	18	13.6%	10	1	3	0	0	22	3
30年度	140	135	21	14	11	10	14	19	7	18.6%	96	68.6%	9	6.4%	10	10	6	0	0	4	5
29年度	181	170	13	12	8	23	20	21	7	15.5%	104	57.5%	25	13.8%	8	6	7	0	0	20	11

志摩市の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩		水産		南伊勢		管外	その他	
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢			度会	南勢							
3年度	339	328	37	32	25	27	21	47	12	17.4%	201	59.3%	3	12	46	13.6%	40	11.8%	0	0	26	11
2年度	313	291	26	45	21	22	12	33	10	13.7%	169	54.0%	0	17	47	15.0%	37	11.8%	0	0	21	22
元年度	389	372	38	51	18	29	19	52	24	19.5%	231	59.4%	3	13	72	18.5%	40	10.3%	0	0	13	17
30年度	400	384	41	39	23	37	11	36	10	11.5%	197	49.3%	4	13	90	22.5%	48	12.0%	0	0	32	16
29年度	432	418	40	49	16	34	20	45	8	12.3%	212	49.1%	0	21	98	22.7%	54	12.5%	0	1	32	14

玉城町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		伊勢市以外	管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢											
3年度	150	143	11	10	13	11	9	14	6	13.3%	74	49.3%	4	1	0	0	8	0	13	8.7%	56	7
2年度	145	139	10	16	12	8	13	7	11	12.4%	77	53.1%	3	3	0	0	7	0	13	9.0%	49	6
元年度	178	167	12	14	11	14	13	20	12	18.0%	96	53.9%	2	5	0	0	7	1	15	8.4%	56	11
30年度	158	150	14	12	11	9	14	11	16	17.1%	87	55.1%	3	2	0	0	18	0	23	14.6%	40	8
29年度	163	156	22	23	7	9	9	13	13	16.0%	96	58.9%	0	5	0	0	10	0	15	9.2%	45	7

度会町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会校舎	南勢										
3年度	69	65	6	9	3	6	7	7	5	17.4%	43	62.3%	0	2	0	0	6	8.7%	0	14	4
2年度	55	49	2	9	6	5	0	4	0	7.3%	26	47.3%	0	5	0	0	8	14.5%	0	10	6
元年度	70	65	4	8	5	10	3	4	5	12.9%	39	55.7%	0	1	0	0	9	12.9%	0	16	5
30年度	86	85	6	8	8	9	6	5	5	11.6%	47	54.7%	0	2	0	0	21	24.4%	0	15	1
29年度	79	76	8	7	9	6	6	11	1	15.2%	48	60.8%	0	5	0	0	6	7.6%	0	17	3

南伊勢町の状況

卒業年度	卒業者数	全日制 高校・ 高等進 学者数	県立					私立		伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩	水産	南伊勢		管外	その他		
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学	度会	南勢校舎										
3年度	54	52	4	11	6	6	8	5	5	18.5%	45	83.3%	0	0	0	1	0	2	3.7%	4	2
2年度	59	58	7	4	3	6	2	6	9	25.4%	37	62.7%	0	0	2	1	1	7	11.9%	10	1
元年度	51	51	7	3	5	8	1	6	5	21.6%	35	68.6%	0	0	1	0	0	13	25.5%	2	0
30年度	64	62	5	7	5	9	3	8	4	18.8%	41	64.1%	0	1	2	2	2	4	6.3%	10	2
29年度	79	75	7	10	5	7	1	5	3	10.1%	38	48.1%	0	1	5	2	2	20	25.3%	7	4

* 管外：伊勢志摩地域の全日制の県立（10校）と私立（2校）と高専（1校）以外の高校・高専への進学者数
 その他：特別支援・定時制・通信制・各種学校への進学及び就職等の数